

愛媛大学附属学校園・支援事例1

希望・願い	本人	学習はみんなと同じように頑張りたい。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本人の希望や自主性を尊重し、必要なサポートを考えたい。 ○ 今のままの本人の良さを伸ばし、楽しく学校に通ってほしい。
1. 児童生徒の状況		<p>(1)これまでの状況（強み、興味関心、学習状況、集団参加等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度までは、自分は勉強が嫌いだという思いが強かった。今年度になり進学したいという思いを持ち始めた。また、SCには将来的には愛媛大学に入学したいという話もしていた。 ○ 将来は大学に進学して心理学を勉強したいと考えている（SCより）。 ○ 人懐っこく、友人は多い。 ○ 仲間とともに楽しく活動することができた。 <p>(2)苦手なこと、困難さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習面全体に不安がある。 ○ 指示や説明に対する理解不足、聞き間違いが多い。 ○ 言語表現が苦手で、会話が一方的になりやすく、場面や状況に応じて話し方を変えるのが苦手である。 ○ 文章の読み取り、計算、漢字、英単語、板書の写しに苦手意識を持っている。 ○ 文字が乱雑であるが、成長するにつれて整うようになっている。 ○ 文章を書く際に、取り掛かるまでに時間がかかる。
		<p>(1)背景にある要因</p> <p>(2)校内委員会、ケース会議等における議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 難しい課題に対しては板書すること自体をあきらめる。 ○ 学習に対する意欲についても不安がある。自分の実力と目指しているところに大きな差があり、自分の実力を把握できていないのではないかと考えられる。 ○ 目標に対して、自分自身の位置からどう頑張ればよいのかをイメージできていないのではないか。 <p>(3)考えられる連携先</p>
3. 支援の実際 合理的配慮・ 基礎的環境整備		<p>(1)校内での支援方法（人的）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 普通の授業の中で理解しづらいと思われるところについては、学級担任や学習支援員が助言する。 ○ テスト等の返却の際に、個別にどこを訂正すればよいのかアドバイスする。 ○ ノートをとっているか、宿題をしているか定期的に学級担任や学習支援員が確認する。 ○ 学習習慣を身につけさせるために、本人に合った（必要な）問題を、学習支援員が定期的にチェックし採点を行った。 <p>(2)補助具、環境整備</p> <p>(3)支援方法の共有状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級担任と学習支援員が提出した課題の提出状況や正答率などの情報共有を行い、量や難易度が適切であるか、定期的に評価した。 <p>(4)相談・関係機関の利用</p>
		<p>(1)支援の効果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計算問題が少しずつ理解できるようになってきた。 ○ テストなど範囲が限定されていない場合でも、設問に対してどの公式を使って解けば良いのか判断できるようにすることが今後の課題である。 <p>(2)引継ぎ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間との学校生活を通して、本人の苦手分野を少しずつ克服し、自分の将来の夢の実現を目指してほしい。
4. 支援の効果と今後		<p>(1)支援の効果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計算問題が少しずつ理解できるようになってきた。 ○ テストなど範囲が限定されていない場合でも、設問に対してどの公式を使って解けば良いのか判断できるようにすることが今後の課題である。 <p>(2)引継ぎ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間との学校生活を通して、本人の苦手分野を少しずつ克服し、自分の将来の夢の実現を目指してほしい。